

報道関係者各位

ログノート、ドン・キホーテグループへ 電子レシートシステム iReceipt の提供を開始

株式会社ログノート(東京都品川区;以下「ログノート」高津祐一社長)は、電子レシートシステム iReceipt(アイレシート)を 2016 年 7 月 5 日より、ドン・キホーテグループへの提供を開始します。iReceipt 導入により、ドン・キホーテグループオリジナル電子マネー「majica(カードとアプリ)」を利用する顧客は、スマートフォンで電子レシートを受け取れるようになります。

■majica の核機能として採用

ドン・キホーテグループは、全国のドン・キホーテ、MEGA ドン・キホーテ、長崎屋、ドイトなど(一部店舗を除く)で、プリペイド方式の電子マネー=majica カードを展開しています。その公式アプリである majica アプリには、majica カードの会員証や入金した現在の「マネー残高」、「ポイント残高」など、様々な機能が搭載されています。今回、この機能の核として、弊社の電子レシートシステム iReceipt が採用されました。majica 会員は、2016 年 6 月 18 日に 400 万人を突破しました。

■majica アプリを開き、「メッセージ」や「m!レシート」ボタンを進んでいくと、直近の電子レシートを表示

顧客に発行する既存のレシートに加え、iReceipt(アイレシート)と呼ぶ電子レシートを顧客のスマートフォンに発行することで、顧客は、膨大な紙の領収書を保存することから解放されます。具体的な流れとしては、majica アプリに iReceipt 機能が搭載され、店舗で買い物をして majica カードで決済をすると、電子レシートが majica アプリに発行されます。その後顧客は、入金した「マネー残高」や「ポイント残高」を確認するために majica アプリを開き、「メッセージ」あるいは、「m!レシート」ボタンから進んでいくと、直近の電子レシートを確認することができます。その仕組みは、majica カードで決済をすると、顧客の情報とジャーナル(買い物情報)がドン・キホーテのサーバーに飛び、同時にログノートのサーバーにも飛び、電子レシートにフォーマット化されます。そして電子レシートは、majica アプリの「m! レシート」という区分に、保存されることとなります。

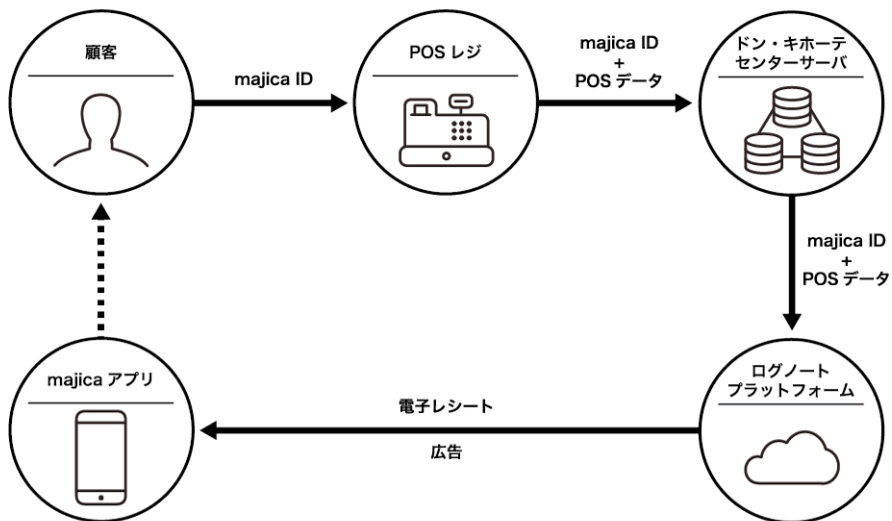
メッセージからの遷移



m! レシートからの遷移



電子レシート発行の仕組み



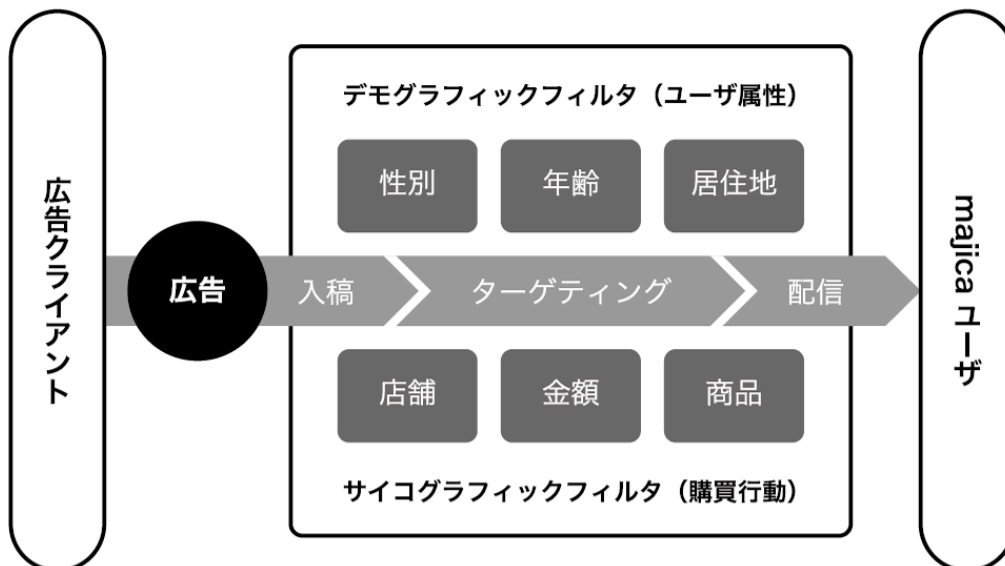
■ドン・キホーテグループで購買された製品の情報も電子化され、電子レシートともに、保存

既存のレシートは、来店者の過去の来店回数や購買金額実績などを踏まえて、販売促進を行うことが困難でした。一方最近では、スマートフォンの普及により、消費者がリアルとweb を行き来できるようになり、店舗は web 上でも存在感を示す必要性に迫られています。iReceipt は、こうした現実に着目し、あふれかえるログを一元管理することを実現します。購買記録は、ひいては、購買の証明や清算、申告などにも展開することができます。今後、電子レシートを活用し、電化製品の保証書添付レシートとしての運用も予定しています。

■電子レシート上で広告サービスも展開

電子レシートには、ふたつの広告面を設け、ひとつはドン・キホーテグループ全店（一部店舗を除く）、もうひとつは特定の店舗を対象に、広告サービスを展開します。この広告は、アプリを開いた電子レシート面に表示され、全店を対象とする広告の方は、クリックをするとmajica ポイントがもらえます。さらに、majica によって、顧客との動線が作れ、majica アプリの顧客情報とiReceiptの購買情報を掛け合わせることで、デモグラフィック、サイコグラフィック、行動要因から顧客をプロファイリングできます。これによって、効率・効果的な広告や販促が可能となり、店舗への来店を促進する施策も容易に展開できます。

電子レシート広告配信の流れ



今後、ログノートは、iReceipt システムを、コンビニエンスストア、スーパーや量販店、ドラッグストアに順次導入し、2018 年度末までに 20,000 店舗への導入、電子レシート総発行枚数 2 億枚、売上目標 14 億円を目指します。また、製品保証書の電子化、電子レシートと連動した家計簿、お薬手帳、購入商品のカロリー管理などの取り組みも予定しております。